

ネイチャー高知

No24 2005年 1月23日発行

謹賀新年

新年明けまして、おめでとうございます。
本年も、どうぞよろしく願いいたします。

2005年度定例総会のお知らせ

2005年度定例総会と研修会を次のとおり開催します。
会員の皆さま、繰り合わせて出席くださるよう、お願いします。

日時 2005年3月5日(土曜日)午後1時30分から

場所 高知市鷹匠町2-1-43 高知市たかじょう庁舎2階
市民活動サポートセンター 大会議室

研修会 午後1時30分から3時

テーマ「ミャンマーの植物(仮題)」

講師 稲垣典年(連絡会幹事・県立牧野植物園)

牧野植物園が調査しているミャンマーの植物について、現地で撮影した植物写真を基に、発表します。

総会 3時から4時

議題

2004年度活動報告・会計報告

2005年度活動計画・予算について

その他

※研修会・総会への出欠を同封の葉書により、2月末までにお知らせください。

足摺半島の観光セミナーから

澤良木 庄一

ことは自然災害が多発した年で、地震、台風、洪水など日本列島全域にわたって大変な災害が発生した。高知県はことし日本に上陸した十個の台風のうち五個が上陸するという記録的な気象状況となった。洪水、浸水、冠水、崩壊など枚挙に遑がない。当然、植生への影響も少なくないと思う。ようやく平常と思われる気象状態になった平成16年11月25日(木)、足摺半島に於いて土佐清水市観光ボランティア会主催の観光セミナー(第六講座、足摺半島の動植物)が行われ、「植物観察」を主として同セミナーに同行した。この講座は土佐清水市が、より魅力的な観光地として発展するために、市民参加による「観光まちづくり」をしようとの趣旨からはじめたもので、一人でも多くの市民に地元の歴史と文化にふれてもらおうと共に、市の観光振興に参画してもらおうことを目的としている。16年以内に七講座を実施するという今回が6回目で、会員32名が参加した。

今回の足摺半島の植生に関する学習では、白皇山、亜熱帯植物園、岬先端部の3箇所がポイントとして選ばれた。相次ぐ台風後の植生観察であったが、コースとなったシイ林やタブ林の中では、植生の損傷は外観的には比較的少ないように思われた。ただ岬先端部をはじめ海岸断崖一帯は植生の損傷が激しかった。なかでも段丘面上に発達するヤブツバキ林は、特に被害が著しく、この春は岬を飾る赤いヤブツバキの花がかなり少ないものと思われる。

容赦なく吹き付けたであろう台風は、ヤブツバキの枝の先をカットするように、小枝とその葉をもぎ取り、現在先端部の15~20cmほどが箒の先のように、悉く枯れ枝と化している。もともと海岸断崖の植生の樹形は、ウバメガシ、ハマヒサカキなどで見るように、風による造形が常に起きている。即ち、立地の風向や風速が、樹冠部の成長方向やカットの程度をきめている。

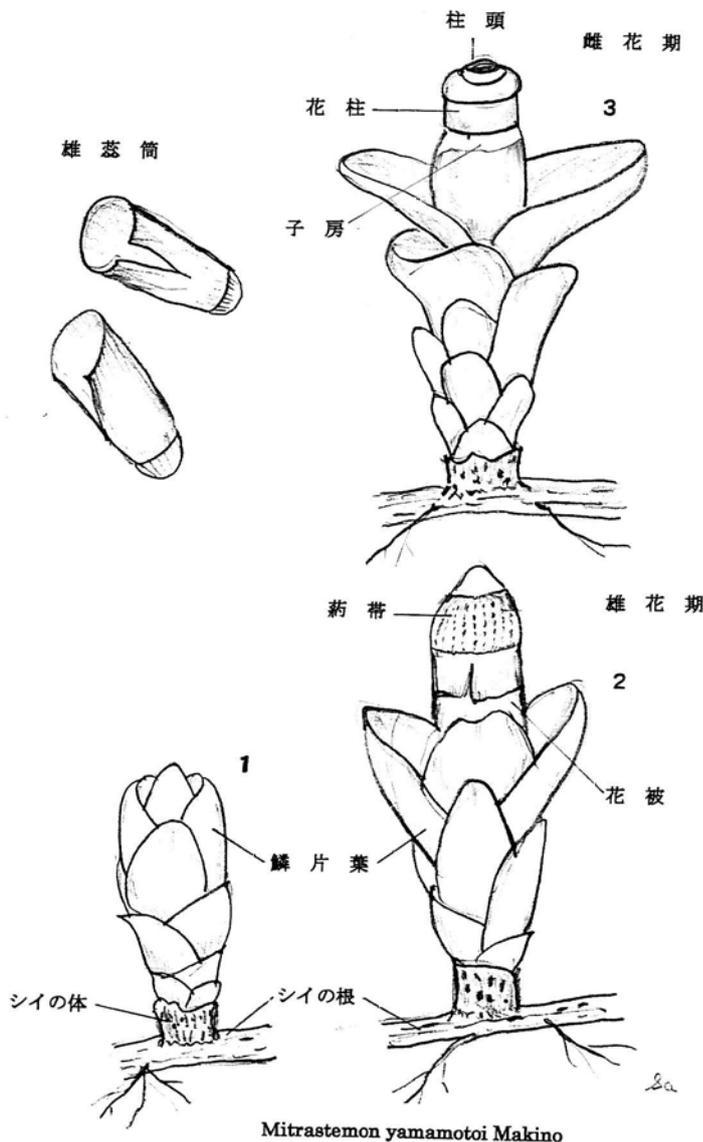
樹冠部がカットされたヤブツバキは、現在、枯れ込んでいる枝の元の部分から、盛んに萌芽している。台風によるカットの刺激と、台風後の温暖な気象が萌芽を促進させたのではなかろうか。萌芽した枝は春に向かって成長し、やがて樹冠部が復元することとなる。ところで花芽の形成はどうなるのか。今期、花を着けるかどうか。足摺岬名物の「ツバキトンネル」が、ことしはどうなるか。話は弾みつつ岬を回る。

午前中は白皇山(433m)の常緑広葉樹林内を観察した。スタジイの優占するシイ林が主役であるが、一部にアカガシの巨樹が点在するアカガシ林もある。林床はイズセンリョウ、アリドウシ、コバノカナワラビが多い。スタジイの根元にヤッコソウの群生が見つかり、皆で地上に座り込んでの観察となった。ヤッコソウは既に雄花期を終わり、帽子(雄蕊筒)を脱いでいて、めしべの先端部は褐色に変色していた。ヤッコソウの観察は初めてという人もいて、持参したスケッチを見せながらの説明となった。

ヤッコソウはその姿の面白さと共に、雌雄器の区別や受精の様子など興味深い植物で、「ふしぎなやつこ」に魅せられて、観察の輪がなかなか解けなかった。このシイ林内には、数箇所の群生地があるが、地元の人々によつて大切に守られている。また林内で、サザンカやヤマトタチバナの自生も観察した。

亜熱帯植物園は上り口のクワズイモの群生から始まり、タブ林の自生地内の観察路を歩いて岬のビロー群生地にいたる。照葉樹林の景観と植物種の維持管理はよく調和されていた。特にリュウビンタイの自生がかなりの個体数見られ、かつて40数年前、この地に自生していたリュウビンタイの巨大株（1株で3.3 m²以上の葉を展開）の復元を願った。

足摺半島は、四国の植物分布のポイントとして興味が尽きない。



図の説明

- 1 シイの根に寄生したヤッコソウは、7月ごろ、つぼみの基がシイの根の上に「いぼ」状のふくらみとして現れる。3ヶ月かかってふくらみは大きくなり、やがてシイの皮層を破って椀状となる。ヤッコソウの本体は、この椀の中から現れる。
- 2 足摺半島では、11月上旬にヤッコソウが姿を現す。体は乳白色で、先端に帽子(雄蕊筒)をつけた雄花期の姿である。雄蕊は全部が筒の上部に帯状に集まっている(葯帯)。
- 3 ヤッコソウの花の盛期の姿で、この頃になると、子房が肥大するので雄蕊筒は基部で切れて脱落し、柱頭が現れ雌花期となる。なお、受粉はメジロや昆虫が媒介するといわれている。種子の散布は雨水による。(参考「日本の野生植物Ⅱ」)

冷遇される絶滅危惧植物 トサノハマスゲ

坂本 彰(代表世話人)

トサノハマスゲ(*Cyperus rotundus* var. *yoshinagae*)は1936年9月16日に吉永虎馬が高知市で採集し、大井次三郎によって、1937年にハマスゲとは別種の *Cyperus yoshinagae* として発表された。その時に大井次三郎は、「高知市の吉永虎馬氏から頂いたハマスゲ類似の植物で高知市の産、小穂が短くて幅広く花が密に着き、一見して区別ができる、しかし他の形態は殆ど差がないのである



が、その変種と見るよりも別種と考えた方が穏当であろう。」(原文の旧仮名遣いを現在の表現方法に改めた。)と発表したが、後に(1944年)大井本人によって変種とされた。

高知県の特産種で絶滅危惧Ⅰ類に位置づけられているにもかかわらず、植物研究者の間でも関心を持たれることもない。また、「土佐」の名前が冠されており、かの吉永虎馬によって発見されたということでありながら、「土佐の博物誌」にも取り上げられていないし、よく使う植物図鑑保育社の「原色日本植物図鑑」や平凡社の「日本の野生植物」にも掲載されていないなど、地味な存在というより冷遇されている植物である。

このトサノハマスゲの分布は、高知市、いの町(旧伊野町)、春野町に限られているようであるが、私の職場(いの土木事務所)の近くにはどういう訳か不思議と多い。昼休みを利用して散歩がてらに分布状況を調べ、住宅地図に落としてみたが、結構あちこちに生育している。生育しているのは宇治川の堤防沿いや道路脇、駐車場の隅などで、アスファルトの舗装をこじ開けて葉や茎を伸ばし、夏から秋にかけてハマスゲに比べると「いじけたような」小穂をつける。

自宅(高知市朝倉)周辺でも朝夕の散歩の際に気をつけて見ており、5カ所の生育地を確認した。しかし朝倉地区は生育場所の改変が激しく、うち1カ所は宅地開発で、1カ所は道路工事(舗装のオーバーレイ)で無くなった。あと3カ所の内1カ所はアパートの駐車場脇であるが、頻りに除草が行われるため生育し続けているのかどうかの確認が難しい。残る場所のうち、自宅に近い小川(水路)に沿った道路脇は、あまり人が手を入れることもなく、また当面道路工事もなさそうであるから安心している。また、啗内坂の国道の植樹柵の中も安住できる場所と思う。

先に述べたように、生育場所は堤防沿いや道路沿い、しかもアスファルト舗装の間隙に根を伸ばし、成長しているので「打たれ強い」植物ではあるが、それでもごっそり舗装をかけられたり、



コンクリートで固められると生育していくことはできない。絶滅危惧Ⅰ類にふさわしい殊遇の仕方を考えるべきと思う。

山中二男先生が植物研究雑誌(第71巻第6号)で報告しているのを見ると、生育地として、高知市では愛宕町、朝倉、寿町、八反町、北端町が、また伊野町では内野(うつの)枝川、伊野が紹介されている。春野町では具体的な地名はなく「川原の砂地に生えている」とされているが、別の報告によれば新川川の土手や仁淀川の堤防に生育していることが確認されている。

このように、世界で高知市中西部や隣接する伊野町、春野町といったごく限られた範囲にのみ生育している植物であり、この点でももう少し調査・解明がされるべき植物であると思うが、手をつけようとする研究者はいそうにない。何とも、冷遇される植物である。

(写真解説)

4ページの写真は「トサノハマスゲ」宇治川河川管理道のアスファルト舗装された部分に根をおろしている。宇治川の堤防では、それほど希ということでもない。

5ページの写真は、「ハマスゲ」に混じって「トサノハマスゲ」が生育している様子。

右側の花序の大きいのがハマスゲで、小穂の長さは20mmから30mm。

左の花序の小さいのがトサノハマスゲ。小穂の長さは10mm以下。

事務局からのお知らせ

自然観察会のお知らせ

2005年3月26日（土曜日） 「スマレと早春の花」

場所 高知市鏡ダム周辺（旧鏡村）

時間 午後1時30分 旧鏡村川口橋北詰集合

（バスを利用の方は、堺町発12時46分川口行きを利用できます。）

内容 ダム湖湖畔の雑木林でスマレの仲間や春に咲く草花を観察します

講師 細川公子さん（連絡会世話人 土佐植物研究会幹事）

申込先 連絡会事務局まで（下記参照）

※午前中は高知県立牧野植物園で、細川公子さんが講師になってスマレ教室が開催されます。

牧野植物園主催のスマレ教室への参加に関するお問い合わせは、

高知県立牧野植物園（TEL088-882-2601）まで。

会費納入のお願い

総会に出席されない方は、会費の納入を忘れないようお願いいたします。

納入方法としては、郵便振替が手数料も安く便利ですので、郵便振替をご利用下さい。

郵便局備え付けの振替用紙で

口座番号 01630-9-41422

加入者名 高知県自然観察指導員連絡会

までお願いします。

会費は年額1,000円です

「ネイチャー高知」高知県自然観察指導員連絡会会報

No24

事務局 高知市朝倉南町3-51-1 坂本彰方

TEL&FAX 088-850-0102

E-MAIL akira@baobab.or.jp